

芦安中学校（前期）自己評価書

平成 27 年 8 月 28 日
南アルプス市立芦安中学校
校長 中込 幸二

1 前期自己評価の経過

- (1) 前期教職員対象アンケート及び生徒対象アンケートの実施（7月）
- (2) アンケート結果の考察を基に職員会議にて改善方策の審議（8月28日）

2 学校評価の分析と改善方策

(1) 教育目標

〔達成状況〕

- ① 本年度1学期間の教育活動を振り返ってみると、各活動が学校教育目標に沿って実施されており、年度の途中なので成果や達成状況をなかなか実感できていないが、概ね良好な状況にあると言える。昨年度同期と比較してもわずかであるが評価は高くなっている。

〔改善策〕

- ① 格段に劣る分野が見当たらないので、今後とも学校教育目標を全教職員が意識し、その目標の達成に向けて、「芦中教育」としての日々の教育活動を組織的・継続的に取り組んでいきたい。

(2) 学校運営

〔達成状況〕

- ① 「校務分掌」については、なかなかスムーズに機能していない傾向も見られる。少ない職員がいくつもの分掌を抱えている中、不慣れな部分のために後追い状態となったこともあった。「職員会議」についても学校運営上ほぼ適切に運営されている。
- ② 校内研究については、3つの柱（学校教育全体を通したコミュニケーションづくりの推進、英会話科の推進・発展、コミュニケーション活動を重視した各教科授業の工夫と基礎学力の向上）を中心に取り組んでいる。「コミュニケーションづくりの推進」では、合同朝の会や絆の集いを通して、他者とコミュニケーションをとる機会を昨年同様設定して取り組んでいる。「英会話科」では予定通りの回数は実施できなかったが、環境整備も進めながら昨年同様に全職員が関わりを持って取り組んだ。3年目となり、小学校からの積み上げや過去2年間の成果から生徒の英会話科に対する意欲や姿勢は良好と言えよう。「コミュニケーション活動を重視した各教科授業の工夫と基礎学力の向上」では、小規模校ゆえに表現活動や言語活動といったコミュニケーション活動を容易に授業に組み込むことはでき、各教科「一人一実践」とからめながら取り組んでいる。学力の向上の指標としては、全国学力・学習調査や県学力把握調査の結果がある。
- ③ 「報告・連絡・相談」は課題を抱えている生徒が多い中、十分とは言えないがかなり機能していると言えよう。しかし、家庭も含めて個々の生徒の実態に深く関わるほど難しさを感じる。

〔改善策〕

- ① 職員の異動も必ずある中、学校現場の職務内容を考えると分掌を平均化することは難しい。主担当だけががんばるのではなく、あるいは任せっぱなしにすることなく、協力し合って時として相互補完的に取り組んでいきたい。そうすることで、学校全体で取り組むという意識が図られてきている。
- ② 2学期以降小学校との連携が多くなる。英会話科も3年目に入っている。既習内容を確認しながらさらなる充実と発展を図っていきたい。外国の方と接する機会があれば、是非活用するなど、学校生活のいたる所でコミュニケーション能力の向上や英会話の力を育てていきたい。
- ③ 職員室が授業や生徒の指導方針を共有できる場として、今後も機能させていきたい。

（3）学習指導

〔達成状況〕

- ① 「進度」については、全校的に良好であった。しっかりした授業計画と授業時間の確保の結果と思われる。また、これは生徒の「意欲的に取り組んでいますか」や「授業はわかりやすいですか」の結果にも影響を及ぼしてくると考えられる。
- ② 授業に関して、生徒には一部否定的な評価も見られ、評価もA～Dに散見される。「授業は、わかりやすいですか」の問いについて若干ではあるが昨年度より落ちている。「授業でわからないことがある時は先生に聞いていますか。」も同様。授業に対しては意欲的であるが、取り組む内容に課題がある様に思われる。今年度の自由記述はなかったが、昨年度同時期に、『自分の力で解決するから先生には聞かない』という生徒がいた。このような生徒に対して、教師は評価しつつも全くの手放しでなく、「見守る」体制が大切と思われる。
- ③ 授業の深化や発展を考えると「課題解決的な学習」や「学び合う学習」の推進が大切である。「学び合う学習」については、教師と生徒とで感じ方に若干の差がある。教師の肯定度は昨年同期より低下傾向にある。つまり「十分に学び合う学習を展開したと思っていない」と反省している。一方生徒は、否定的とも肯定的とも同様に捉えている。定着度や他教科への波及効果、あるいは基礎基本の定着については、コミュニケーション活動など生徒との関わりの中で注視していきたい。
- ④ 「個に配慮した授業」も少人数の環境下だから推進可能ではあり、各教科共に最大限の配慮のもとに取り組んできたと言えよう。別室登校の生徒にも手分けして取り組んできた。
- ⑤ 道徳の授業で「心から考えたり感じたりしていますか」について、教師側が肯定的であるのに対し、生徒に若干の否定的評価がある。また昨年同期と比べても低くなっている。1学期に行われた道徳公開では外部講師の招聘など工夫を凝らしたりしたが、十分に響いていなかったのだろうか。あるいは通常道徳の授業が不十分だったのであろうか。学年によっても異なるであろうが、もう少し踏み込んで検証することが必要と思われる。
- ⑥ 「総合的な学習の時間」については、これも生徒に若干の否定的評価が見られるが、昨年同期と比べても肯定度が高く、教師側も「生徒が意欲的に追究する総合的な学習」を感じ取っている。

〔改善策〕

- ① 学力向上は一朝一夕に成果が現れるものではない。全国学力学習状況調査の上位県や大幅に改善が図られた県では、長年の取り組みや確固たる指導体制が確立されている。本校は生徒数も少ないの

で、正答率の比較等で一喜一憂するのではなく、全国や県の学力調査の結果等を分析し、生徒個々と本校の課題を把握する中で、PDC Aサイクルの手法によって全教師が授業改善を進めていく。

- ② 基礎学力の定着を図るために、まなびの時・放課後の補習の充実や保護者と連携し家庭学習の習慣化を図っていく。
- ③ 道徳については、『私たちの道徳』にそった授業は今まで通りにしっかり行うと同時に、「しなやかな心の育成アクションプラン」に沿い、道徳の授業以外においても自他の敬愛や困難に打ち勝つ心の育成を学校の内外の機会を通して推進し、正しい判断力等の道徳実践力を育てるために、学校教育全体で指導を行っていく。

(4) 生徒指導

〔達成状況〕

- ① 「学年に仲良くしている友だちがいますか」は全生徒が「多く・複数」と回答しているが、学校生活について、あくまで本人の主観ではあるが「明るく楽しい」と感じていない生徒が3名いる。「いじめや仲間はずれ」に関しては「友達をいじめたり仲間はずれをした・された」への回答が各1名ある。回答は本年度1学期についてであるが、昨年度終盤、強い言動による周囲への影響や、言葉の行き違い、人間関係のもつれなどのトラブルから独りよがりとなって納得できる解決に至らなかったケースがあった。集団生活ではこのような事態は常に起こり得る。そしてこれらをすぐにいじめと判断することは難しい。学校も丁寧に状況等調べたがいじめではないと判断した。他の生徒は「いじめ・仲間はずれはない」と回答している。教師も日常生活の中で生徒間の好ましくない事案の報告や、その都度指導を行ってきた。
- ② 「困った時に相談できる友だちがいる」と全員回答している。一方、「相談できる先生がいない」と回答する生徒が1名いる。これは昨年度前期の調査でも同様の回答状況であり、自力で対処するので『必要ない』と考えているのか、『必要だけれど本当にいない』のかの実態までは把握できていない。
- ③ 「気持ち良いあいさつ」・「適切な言葉づかい」について、教師はしっかりできていると評価している。授業をはじめ行事等においても実感する機会が多々あった。生徒も1名の「気持ち良いあいさつ」のD評価が以外は、「気持ち良いあいさつ」・「適切な言葉づかい」共に肯定的な評価であった。今後も生徒への自覚を促しつつ、定着化・習慣化を目指して教師側も取り組んでいきたい。

〔改善策〕

- ① 普段から生徒の話聞く姿勢を持ち、信頼関係を深めるとともに、生徒の情報収集のアンテナを高くしておく。生徒の情報交換と指導方針を共有し合い、全職員で同じ歩調で対応していく。
- ② 適切でない言葉が発せられたときは、その場で指導する。また、お互いを認め合い、相手の気持ちを考えて発言したり行動したりできるよう指導していく。

(5) 学校生活全般（行事・部活動・生徒会活動・・・）

〔達成状況〕

- ① 1学期最大の行事「仙丈ヶ岳全校登山」は、天候が危ぶまれた中生徒14名、職員6名、支援者8

名、保護者4名で予定通り実施することができた。事前トレーニングや登山学習を計画的に行って万全の態勢を整え、当日は大きな病気・けがもなくほぼ予定通りの日程を消化できた。山頂での御来光、雷鳥他南アルプスの素晴らしい景観や動植物について直接触れることができた。苦難なあるいは危険な場面もあったが、ルールや約束に則り、また協力する態度で臨むことで十分に対応できることを学んだと思われる。また、芦安ファンクラブから一眼レフカメラセットを寄贈していただき、生徒全員が心に残る写真を撮ることができた。

- ② 「部活動」「太鼓」「合唱活動」「生徒会活動」「学校行事」いずれにおいても「そう思う」のA評価及び「だいたいそう思う」のB評価の割合が昨年同期と比べても高く、意欲的に取り組んでいたと言える。ただし、いずれにおいても否定的な回答の生徒が2名おり、仲間関係が影を落としていると推察されるが「意欲的に取り組めない・取り組まない」気持ちの部分について対応していく必要がある。
- ③ 教師も、諸活動の生徒の取り組みに対する評価はおおむね肯定的で、その成果も期待している。

〔改善策〕

- ① 登山については、「登らされている登山」でなく、主体的に登山に臨めるように、実行委員会を設けてトレーニングや学習に取り組む体制はできている。これをさらに充実させる一方、生徒の実態にあったテーマ設定を行い、達成感や成就感、自然の素晴らしさや厳しさを実感できる取り組みを今後も考えていく。
- ② 学校生活の中でも大きな比重を占める部活動については、バドミントン部のみで長い間活動してきたが、運動の苦手な生徒もいる実態や動向を慎重に検討し、本年度音楽部を新設した。このことが生徒の活動の意欲喚起につながったと思われる。充実した取組や内容によって学校生活全体のさらなる活性化を期待したい。
- ③ 学校生活の中で、生徒の「主体性・自主性」はいつも課題となっている。改善の様子は認められるが、学習や諸活動の中で、生徒が選択して決定する場面などを通して、認める・褒める活動を意識的に行っていき、自己肯定感が持てるようにしたい。また、「個に応じた指導」も一人ひとりの生徒の実態に応じた指導や支援を今後もできるだけ展開していきたい。

〔6〕家庭・地域との連携および小中の連携強化

〔達成状況〕

- ① 地域の人材の有効活用や地域行事への積極的な関わりは相変わらず評価が高い。全校登山当日ばかりでなく、事前取組が芦安ファンクラブや環境省の皆さんの協力を得て進めることができた点や、新緑やまぶき祭への参加、道徳他の講師に対する評価が良かったからであろう。
- ② 家庭と学校との連携は、学校からの情報発信(各種たより、ホームページ)と家庭からの申し出や連絡が密に行われていたととらえているが、不十分の感はある。1学期に学校側が行ってきた事に関して、保護者・地域の人の反応はその時々聞くことができている。2学期の保護者アンケートで詳細は確認することとする。
- ③ 小中連携は、「隣接している芦安小中学校が9年間で子どもたちを育てる」という意識である。1学期は、全職員による4月当初の会議と行事(引取り訓練、若葉給食、教育を語る会など)や英会話科に

関わる活動が主であった。連携をあまり実感できていない職員がいるので、更に連携を深める必要がある。

〔改善策〕

- ① 家庭との連絡は密に行われ、申し出等にも丁寧に可能な範囲で対応しているが、足りない部分については個々の対応を更に行う。「学力」については学習習慣を確立することが、生徒の学力向上に必要な不可欠である。なお一層、家庭と連携して取り組んでいきたい。
- ② 2学期は芦安文化祭や英会話科の取り組みを始めとして、具体的な場面での小中連携の活動を行っていく。また、年3回行われる「小中連携会議」において小中の全教職員が一堂に会すので、情報を共有し、建設的な連携を進めていく。中学校職員は小学校の児童を理解する機会とする。

(7) その他

- ① 前向きで、積極的に考える生徒が多いが、人間関係のトラブル等の影響でそうでない生徒や不登校の生徒もいる。この解決のために、生徒を中心に置いて家庭・地域（外部機関）・学校で話し合い等を積極的に持っていきたい。
- ② 生徒数・職員数が少ない中で、多くの活動を行っているので、一人ひとりの負担は大きい。しかし本校に魅力を感じて地区外から来る生徒もいるので、本校の教育環境を生かして、更に良い「芦中教育」がなされるように工夫・改善していきたい。